



『とろんの月の村通信』起の章

—2027年10月9日から64日間の祭り
(たましいのかくじっけん) 第五弾にむけて—

とろん

まった。そして、たまたま必然、祭り本番初日の2月22日の午後2時に、東京の斎場で焼かれることになったのだ。

本番2月22日午後、宙心閣テラスで、タオ指庄の僧侶(遠藤暁乃)さんたちのバンド(AMINADABU)から弟への弔いが始まり、インド古典音楽家のSHREEさんと巫女シンガー(WACO)、天然肉体詩人(むしまる)さん、と聲と舞いの只中、(64歳)の肉体が東京で焼かれていったのだ。

祭り会場となる月の村(岡山)は、まだ半分も切り開かれてない大自然状態で、祭りに向かうこの五年間でさらに「道」と「場」を切り開き、五年後の祭り本番で「道場」開きとなる。

今までは、ボク独りで黙々と切り開き続け、それに感応した人たちが、今、(自発力)全開でかかわろうとしている。この先5年間、祭り本番までに、一体どんな全開(自発力)が登場してくるのが、とてもタノシミ。

弟やPIKOさんを含めて、この5年間に、かけがえのない大切なひとたちが、この世からあの世へと逝ってしまった。71歳のボクだって今まで何度も死線をさまよってきてるし、この新聞の編集長(あばっち)も癌から奇跡的に蘇ってきてるし、ボクもアナタも、お互い、いつ逝ってもおかしくない中、ボクが突如、(たましいのかくじっけん)第五弾の告知をし、年一回、新聞の9月号で六回の連載を始めることで、ボクもアナタも、お互い、(ぬきさしならぬ関係)が成立し、「せめてこの五年間」は、ボクもアナタも、お互い、この世でボクやアナタを全開し、日本中、世界中、元気力発伝処が産まれてくれると、もう、サイコー！！。

我が弟に「祭り期間中には死ぬな！！！」と言い放ったように、我が旧友(あばっち)やかけがえのない大切なともだち、そして自分自身にも「5年後の祭りが始まり、終わるまでは、元気でいて！！！」と、この星でのボクの切ない願いを込めているのかもしれない。それほどまでに、ボクらは、いまこころを、全細胞で、精一杯、一日一日をクリヤーしていったるだけの儂い存在のだから。

実は、いま、太一や、月の村、保安林のすべてを合わせると33000坪の私有地が有り、5年後のまつりでは、二つの沢の水源地を含む、その五分の一が祭り会場になるのだけでも、いつの日か、田畑山谷保安林などのすべてを祭り会場に！！と想い描いている。

この世に生きてるうちに、標高333メートルの太一やを臍にした33000坪世界から、

あ！！！！と(うちゅう)に向けて飛び、翔び放ちゆく前代未聞の祭りキセキ風景を目撃したいものだ。

今回の写真に写っている歓喜の若き女神(ゆいの)は、祭り本番前に突如現れ歌い、祭りの最終日にも突然現れ唄ってくれた。彼女のような、産まれてたてのようなイノチ命いのちを放つ存在風景こそ、この星、この世への感染力絶大！！！！！！！！！！

五年後の祭りにも、きっと、この若き女神、突如、突如とボクらの前に出現！！！！！！？？

オタノシミ。

起、承、転、結、飛、翔の章、と六回の連載の始まりです。

PS.

1988年~2000年~2012年と連鎖してきた12年サイクルの(いのちのまつり)

次は、2024年！！！！

願わくば、20代30代40代の若者たち、産まれてたてのようなイノチ命いのちを放つ存在が

いいだっぺとなつて、

ボくら、いまこころを、全細胞で、精一杯、一日一日をクリヤーしていったるだけの儂い存在のボくらに、インスパイヤー！！よるしくね~。

そして、

2027年！！！！！！！！@月の村(岡山)絶対融合！！！！

2007年7月7日七夕から七週間のまつり(たましいのかくじっけん)第一弾がタイ北部の山中、桃源郷PAIの(ムーンビレッジ)で放たれて、いよいよ20年後の2027年、今から五年後、第五弾が岡山の山中(月の村)で放たれようとしている。

今年2022年初春、第四弾目のじっけん大成功！！！！

その瞬間、ボクの内奥では「祭り、じっけん、はもうこれでオシマイ！」だったはずなのに、祭り最終日、3月21日の春分の日から数えて丁度四か月目の7月21日、突如と、第五弾風景が天から降り注いできたのだ。

以前、太一やの宙心閣(祭り第三弾のシンボル)で(ラビラビ)がお披露目ワークショップをやってくれたのだけど、その(ラビラビ)のパートナー(PIKO)さんが今年6月に亡くなり、逝く直前まで制作していたCDが、彼の65誕生日、7月21日に我が家に届いた。

天空の太一やに向かう車の中でその産まれたてのCDを聴いていた時、なぜだか突如、10月9日ジョン・レノンの誕生日~12月8日ジョン・レノンの命日までの二か月+三日間、64日間の祭り風景が天から降り注ぎ、そして、ボクの内奥から、あ!!!その始まりの日は愛妻はるかかの51歳の誕生日だ！！！！と、なにか、腑に落ちてしまったのだ。

大都会での孤独死を心から切望していた7歳年下の弟も、今年2月、PIKOさんと同じ(64歳)で、東京のアパートの一室で念願の孤独死を達成した。

「祭りの最中には逝かないでね~」と釘を刺していたボク、兄貴の願いをしっかりと守るかのように、祭り直前、2月18日に逝ってし